



第12回

全国藩校サミット®行田大会

大会の記録 平成26年7月5日～6日

目 次

実行委員長挨拶	1
会場準備・受付	2～3
藩主会議	4～5
藩校会議	6
研修会【講演会】 講師／加地 伸行 氏	7
式 典	8～9
参加藩主・藩校紹介	10～13
記念講演会 講師／神田 紅氏	14～15
会場周辺の風景	14～15
素読発表	16～17
次期大会開催地報告・引継書受渡し	17
交流会	18～21
エクスカーション	22

第12回全国藩校サミット行田大会 役員一覧

実行委員長挨拶



「第12回 全国藩校サミット行田大会」 記念誌発行に当って

第12回 全国藩校サミット行田大会 実行委員長 松 平 忠 昌

第12回全国藩校サミット行田大会は、平成26年7月5日～6日の両日にわたり、行田市で開催されました。初日には、若干の雨が降りましたが、次第に天気も回復して無事に大会が運営できました事は、偏に関係者の熱い思いとご尽力によるものであり、ご同慶の至りであります。

藩校は、江戸時代に各藩の藩士とその子弟の教育の為に建てられた学校であり、そこでの教育は、日本のリーダーである人々を育み、精神を鍛え、安定した260年を超える江戸時代を維持し、結果として外国の人々が驚く程の生活様式・態度や人としての評価を得ています。

全国藩校サミットは、日本における「精神文化の衰微、教育の荒廃、日本語の乱れ」などの現状を憂い、平成14年から漢字文化振興協会が中心となって始められた活動です。このような現状を打開し、地域の精神文化の復興を図り、日本人としての美質を取り戻す為に、藩校教育を再評価し、その教育と精神の伝統を現代に活かす方策を模索する事を目的として、毎年各地で開催されてきました。

第12回目全国藩校サミット大会は、「行田らしさ」と「次に繋がる大会」を標榜して運営しました結果、200名を超える全国の各藩ご当主や藩校関係者をお迎えし、当日の会場には1,000名を超える聴衆に集まって頂き、盛大に挙げる事が出来、行田市の名前を更に全国に広める良い機会となりました。当日の行田商店連合会のご協賛によるミニ商工祭、甲冑隊によるお出迎え、翌日の古代蓮の里の蓮観賞やさきたま古墳群散策・行田市郷土博物館訪問など盛り沢山の中にも行田らしさを味わって頂く事ができたものと思います。

この様に大勢の全国の藩校関係者を受け入れ、おもてなしをする事でこの大会を成功裡に終える事ができたのは、埼玉県・行田市及び実行委員会の関係者各位のこの大会への並々ならぬ献身的なご尽力・ご協力の賜物であり、次の大会にも繋がる大会になったものと確信します。

ここに、行田市での第12回全国藩校サミット大会を総括して、皆様への感謝の意を表しますと同時に、この大会を記憶に留めて頂く事とこれからの藩校サミットの活動に繋げる一助とする事を目的に当該大会の記念誌を作成しました。ご覧頂きたくお届け申し上げます。

(忍藩松平家第16代当主・公益財団法人忍郷友会会長)

会場準備・受付 7月5日 9:00～



いよいよ本番 矢澤忍郷友会藩校サミット協力委員会委員長からの説明に聞き入る実行委員



テーブルマスター作法の説明に聞き入る実行委員



実行委員長に神妙な面持ちの福島部会長



お茶おもてなし準備が整いました



受付風景



受付風景



待合風景



一服如何ですか



お茶をお召の紀州藩徳川さん



棚倉藩阿部さんと松平さん



盛岡藩南部さんと松平さん



談笑する各藩ご当主

藩主会議 7月5日 12:30 ~

各藩のご当主にご出席頂きました。



会議の様子



会議担当黒淵さんと打合せする松平議長



会議の様子



開会前の松平議長



開会宣言する松平議長と奥様



佐倉藩堀田正典様ご夫妻



結城藩水野勝之様ご夫妻



壬生藩鳥居忠明様



棚倉藩阿部正靖様



長岡藩牧野忠昌様ご夫妻



湯長谷藩内藤博様と二本松藩丹羽長聡様



庄内藩酒井忠久様ご父子



三根山藩牧野忠由様、田中藩本多紀雄様、吉田藩大河内元冬様



水戸藩徳川斉正様ご夫妻



佐賀藩伊藤祐様と佐賀藩多久邑多久知明様

第12回 全国藩校サミット行田大会 「行田宣言」

江戸時代、全国260余藩の藩士とその子弟の教育のために建てられた藩校の教育は、「人の道」と「心の教育」を軸として日本のリーダーである人々を育み、精神を鍛え、安定した260年を超える江戸時代を維持し、いまでも外国人の人々が驚く程の「躰、マナーや人としての行い・態度」に高い評価を得る結果に繋がっています。各藩では、国を支え、国と領民を護るための藩校教育に尽力し、様々な人材を輩出すると共に、各地方の文化や街づくりに貢献して参りました。

藩校サミットは、日本における「精神文化の衰微、教育の荒廃、日本語の乱れ」などの現状を憂い、漢字文化振興協会が中心となって始められた活動であり、このような現状を打開し、地域の精神文化の復興を図り、日本人としての美質を取り戻すため、藩校教育を再評価し、その教育と精神の伝統を現代に活かす方策を模索することを目的として、11回に亘って毎年各地で開催されています。

本日、私たちは「彩の国」埼玉県行田市に集い、「藩校教育を今に活かす」をテーマに、第12回目の全国藩校サミット行田大会を開催しました。この大会を通じて、各地の藩校の多くの関係者が、不断の努力と奉仕・報恩の思いで伝承されてきた藩校教育の伝統と精神に基づく活動を学び、認識を深めることができました。

行田は、藩校サミットの参加関係者各位との連携と次に繋がる活動を念頭に、藩校「進脩館」の教育を今後の人づくり、街づくりに活かしていくことを誓います。

私たちは、藩校が果たしてきた役割・精神と伝統を見つめ直し、手を携えながら、自らが「一燈照隅」の想いで出来ることを着実にやっていくこと、日本人の誇りを取り戻すこと、心豊かで明るい我が国と各地域の街づくりに貢献すること、及び次世代と未来に対して責任を負うことをここに宣言します。

平成 26 年 7 月 5 日
第12回 全国藩校サミット行田大会



柳河藩立花宗鑑様ご夫妻



土佐藩山内豊功様ご夫妻



秋月黒田藩黒田長幹様



峰山藩京極高幸様



田辺藩牧野行成様ご夫妻



紀州藩徳川宣子様、漢字文化振興協会会長石川忠久様、盛岡藩南部利文様



伊予松山藩久松定智様



新見藩関勝様と福山藩阿部正紘様



桑名藩松平定純様と備中松山藩板倉重徳様



宇和島藩伊達宗信様ご夫妻と土佐藩山内豊功様



熊本藩細川護光様と薩摩藩島津忠裕様



宇和島藩伊達宗信様ご夫妻



福島藩板倉敏和様ご夫妻と湯長谷藩内藤博様

藩校会議 7月5日 12:30 ～

各藩代表の方にご出席頂きました。



会議の様子



会議の様子



忍藩代表小山さん・渡邊さん・大野議長・会議担当碓井さん

採択文

私達藩校関係者は、埼玉県行田市に集い「藩校教育を今に活かす」をテーマに話し合い、日本の将来のために下記のことを合意致しました。

記

- 一、 藩校教育の精神「人の道」と「心の教育」の重要性を再認識し、各地に広めてまいります。
- 一、 その実現の為に、素読教室等の事業を進め、今後も相集い、協力し合って前進してまいります。

平成 26 年 7 月
第12回 全国藩校サミット行田大会
藩校会議 一同



挨拶する大野議長

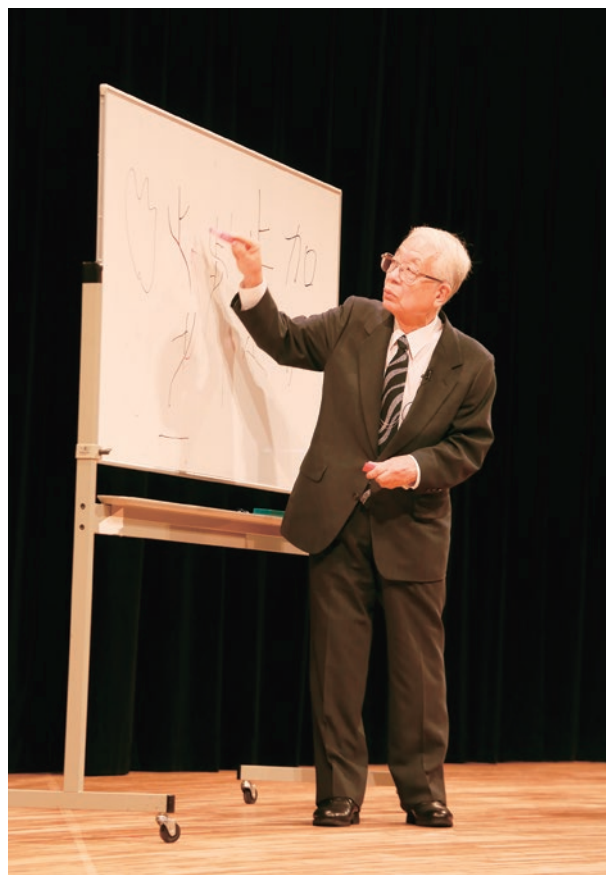
研修会【講演会】 7月5日 12:30 ～



「国語と日本語は違います。」



「いざ鎌倉！は Let's go to Kamakura では無いんです。」



ホワイトボードを使って力説する加地先生

テーマ「国語教育の柱—漢字・古典・短文作り」
講師／立命館大学シニアフェロー・大阪大学名誉教授 加地 伸行 氏



「加地さん ご講演有難うございました。」謝辞を申し上げる鈴木実行委員長代理

式典 7月5日 14:00～



司会担当の行田青年会議所会員 池田さん・高根沢さん



スクリーンへは御三階櫓が映し出された



はためく国旗



国旗に注目 国歌斉唱



開会の辞 渡邊副実行委員長



左 石川会長、中央 松平実行委員長、右 大会役員諸氏



松平実行委員長と石川会長



歓迎の辞 上田清司埼玉県知事



主催者挨拶 松平実行委員長



主催者挨拶 石川漢字文化振興協会長



歓迎の辞 工藤正司市長



大会役員諸氏 右端は鴻巣市から駆けつけてくれた原口市長



藩主会議報告 松平議長



藩校会議報告 大野議長

参加藩主・藩校紹介 7月5日 14:30～



ご登壇各藩毎に選曲したメロディーを演奏する和田綾香さん



ご登壇ご当主に見入る上田知事

第12回全国藩校サミット参加藩校

盛岡藩	【作人館】	棚倉藩	【修道館】	富山藩	【廣徳館】
仙台藩	【義賢堂】	水戸藩	【弘道館】	岩村藩	【知新館】
庄内藩	【致道館】	結城藩	【秉義館】	田中藩	【日知館】
天童藩	【義正館】	壬生藩	【学習館】	吉田藩	【時習館】
米澤藩	【興譲館】	忍藩	【進修館】	桑名藩	【立教館】
福島藩	【講学所】	川越藩	【講学所】	田辺藩	【明倫館】
湯長谷藩	【致道館】	佐倉藩	【成徳書院】	峰山藩	【敬業館】
守山藩	【養老館】	江戸幕府	【昌平坂学問所】	紀州藩	【学習館】
白河藩	【立教館】	三根山藩	【入徳館】	備前松山藩	【有終館】
二本松藩	【敬学館】	長岡藩	【崇徳館】	新見藩	【思誠館】

福岡藩	【修猷館】	備前岡山藩	【閑谷学校】	秋月黒田藩	【稽古館】
柳河藩	【傳習館】	福山藩	【福山誠之館】	豊津藩	【育徳館】
岩手藩	【義老館】	岩国藩	【講道館】	佐賀藩	【弘道館】
高松藩	【明倫館】	丸亀藩	【明倫館】	佐賀藩多久邑	【東原庫舎】
伊予松山藩	【明倫館】	宇和島藩	【明倫館】	鹿島藩	【弘文館】
土佐藩	【教授館】	薩摩藩	【造士館】	平戸藩	【維新館】
				熊本藩	【時習館】
				薩摩藩	【造士館】





新見藩 新見藩「1万8千石」

思誠館 岡山県新見市



創立当時の思誠館再現図

岩国藩 岩国藩「6万石」

養老館 山口県岩国市



養老館の門

伊予松山藩 伊予松山藩「15万石」

明教館 愛媛県松山市



明教館 講堂
(愛媛県立松山東高等学校敷地内)

福岡藩 福岡藩「52万6千石」

修猷館 福岡県福岡市



藩校修猷館跡

豊前藩 豊前藩「15万石」

育徳館(思水館) 福岡県みやこ町



黒門

忍藩 忍藩「10万石」

進脩館 埼玉県行田市



藩校進脩館の名を取った
埼玉県立進修館高等学校



備前岡山藩 備前岡山藩「31万5千石」

閑谷学校 岡山県備前市



閑谷学校講堂

高松藩 高松藩「12万石」

講道館 香川県高松市



高松城長櫓と中濠

宇和島藩 宇和島藩「10万石」

明倫館 愛媛県宇和島市



明倫館外観

柳河藩 柳河藩「10万9千4百石」

傳習館 福岡県柳川市



伝習館孔子像

佐賀藩 佐賀藩「35万7千石」

弘道館 佐賀県佐賀市



弘道館記念碑

鹿島藩 鹿島藩「2万石」

弘文館 佐賀県鹿島市



鹿島城赤門

薩摩藩 薩摩藩「77万石」

造士館 鹿児島県鹿児島市



造士館

福山藩 福山藩「11万石」

福山誠之館 広島県福山市



福山誠之館記念館

丸亀藩 丸亀藩「5万1千石」

明倫館 香川県丸亀市



藩校に掲げていた明倫匾額
(丸亀市指定文化財)

土佐藩 土佐藩「49万石」

教授館(致道館) 高知県高知市



致道館表門

秋月黒田藩 秋月黒田藩「6万石」

稽古館 福岡県朝倉市



稽古館平面図

佐賀藩 佐賀藩「35万7千石」

東原庫舎 佐賀県多久市



東原庫舎学制 卷子本

熊本藩 熊本藩「54万石」

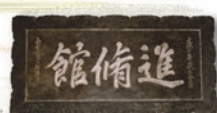
時習館 熊本県熊本市



時習館跡

忍藩 忍藩「10万石」

進脩館 埼玉県行田市



文化10年(1813)、参勤講校進脩館が
開設された際につくられた匾額



仙台藩伊達泰宗様と徳川様



立礼する米澤藩上杉邦憲様



各藩を代表してご挨拶する徳川宗家徳川恒孝様



各藩の映像をコントロールする実行委員



西日本各藩と忍藩松平忠昌様（左端）、スクリーンは進脩館



東日本各藩

記念講演会 7月5日 15:40 ～



テーマ「江戸後期の忍藩と明治への移行」

講師／講談師 神田 紅氏

埼玉県行田市はのぼうの城で有名になった所。北に利根川、南に荒川、水に囲まれています。

近くにさきたま古墳群があり、この中の丸墓山は古来から戦では野戦の陣として使われました。

室町時代15世紀後半に成田氏がそれまで支配していた忍氏を破りこの地に城を築きました。

1560年に織田信長が今川氏を滅ぼし、1575年長篠の戦で武田軍を破り、1582年武田氏を滅ぼし天下布武を唱える寸前で本能寺の変にて討たれるや、秀吉がその後を継ぎ1590年天下統一の為に関東へ攻め寄せました。これに抵抗したのがのぼうの城の物語。忍城は一ヶ月間抵抗し、関東諸城の中で唯一負けはしなかったが、小田原本城の降伏に従い開城となったのです。

秀吉が北条氏の支配していた関東を徳川家康に任せると、家康は四男忠吉を忍城主に任命、忠吉はこの時12歳。徳川四天王の一人井伊直政の娘を忠吉に輿入れさせ、直政を忠吉の後見役とし、家康もわが子を気遣ったのか忍城の点検・修復或いは鷹狩に訪れたりした記録が残っています。

1600年、関ヶ原の戦いで忠吉は、井伊の赤備え軍団と共に一番乗りしたり、島津の猛攻を防いだりと大活躍。その功で尾張清州城主になりますが、合戦での傷が原因で7年後に死去。

忠吉亡き後、忍城は長く城主不在で城番の時代が続きます。

1633年、智恵伊豆で名高い幕府老中松平信綱が第2代目城主となります。1638年島原の乱が起こるや、時の将軍家光は忍城主松平信綱に島原の乱の平定を命じます。信綱は忍の将兵1500を連れて幕府軍10万の総大将として活躍し、翌年川越城主へと栄転します。

信綱の後には1639年、将軍家光の老中阿部豊後守忠秋が第3代目城主。信綱が智恵の人ならこちら忠秋は心の人。忠秋は信綱より6歳年下だが人情味あふれるエピソードが多々あります。忠秋は信綱と同じく家光の小姓から老中になった人、家光の信頼が最も厚く「どこまでも家光公のお側に」と云う遺言で、日光の家光公(大猷院)霊廟の傍に眠っています。

この阿部氏は忠秋を初代とし、九代阿部正権10万石まで184年間忍藩を治めました。

阿部家は幕府に於いては5代に亘って老中を務め、又、大阪城代や京都所司代としても活躍しました。一方阿部家は地元忍藩をも良く治め、農民たちも良く着いて来ました。

1823年、寛政の改革を成功させた白河藩松平定信が桑名移封を希望し、忍阿部氏が白河へ移封、前出長篠の戦で功を挙げた奥平信昌の子息(母は家康の娘)を始祖とする奥平松平氏が桑名

会場周辺の風景



幟旗もお客様を歓迎



のぼう様もお出迎え



から忍へ云封になりました。この事を三方領地替えと云います。

桑名から忍へ移封になった奥平松平氏のご当主は松平忠堯23歳、家臣ともども二千余人が、桑名から家財道具や墓石までも忍藩へ運んでいます。天祥寺や桃林寺も共に移転して来ました。

忠堯は、忍へ来るや、千軒もの家臣の家を造り、更に1826年には忍藩校進脩館を開校、漢学者の芳川波山を藩儒としました。1838年、忠堯は藩主を忠彦に譲るが、忠彦は病弱で1841年にはその弟忠国が藩主となり、千葉県富津での沿岸警備や東京湾台場での警備に尽力しました。東京湾第三台場は忍藩が警備したもので、現在は台場公園として整備されており、当時「忍の巨筒」云われた巨筒が今でも残っています。

1863年忠国は忠誠に家督を譲るが、1868年維新の際に、新政府に対して恭順するか抗戦するかと藩論が二分した時に「時代の流れだ。抗戦しない様に。」と云い置いて死去します。

忠誠も明治2年7月に死去し、藩主は忠敬になるも、同年9月に版籍奉還で藩主から藩知事になり、明治4年の廃藩置県で免官され、忍・酒巻から船で東京へ去ります。

話を進脩館に戻しますと、松平忠堯が忍へ作った進脩館は芳川波山(茨城県生まれ、江戸や下田で修業を積む。1847年没、墓地は行田市・長久寺)の活躍で発展し、忠国の時代には時勢の変

化に応じて進脩館の他に、初等教育の為の培根堂や国学館、洋学館を相次いで設立しました。これらは明治4年に廃止になりましたが、多くの人材を世に送り出しました。

明治14年に進脩館小学校が現れましたが、大正10年には忍町尋常小学校、その後行田市立南小学校を経て、現在は行田市立中央小学校になっています。一方昭和2年設立の忍町立商業学校が、平成10年に埼玉県立行田進脩館高校と名乗り、平成17年の県立三校統合により埼玉県進脩館高校となり今日に至っています。

又、江戸時代に忍藩主が推し進めた足袋産業が大いに栄えて、忍商業銀行や火力発電所、馬車鉄道施設する等、大いに発展して参りました。

明治38年10月22日、忍藩最後の藩主松平忠敬公の子松平忠壽様や忍藩郷士団、青年団が集い「忍郷友会」を設立、以来一貫して地域社会、国家に役立つ人材育成の教育支援を行っており、本年4月1日付で公益財団法人忍郷友会となりました。現在は第4代会長松平忠昌氏が筆頭に会員全員が浮城の町行田の為、又地域社会、国家の為に進脩館魂をもって励んでおります。

「第12回全国藩校サミット記念講演 忍藩の進脩館」と題しました一席は、これをもって読み終わりと致します。



こちらは足袋の販売です

素読発表 7月5日 16:30 ～

素読教室児童 48 名・埼玉小学校児童 116 名(計 164 名)



素読教室の司会は、
行田青年会議所 柿沼さん



素読教室をご指導下さっている方々





次期大会開催地報告・引継書受渡し 7月5日 17:00 ～



引継書をご披露する松平実行委員長



「次回大会でお待ちしています。」福岡藩の皆様



引継書の受け渡し



閉会の辞 白石副実行委員長

交流会 7月5日 18:00 ~



武蔵あばれ太鼓で歓迎



司会を担当する倉持さんとアシスタント中里貴子さん



開宴の辞 松平実行委員長



ご挨拶 鈴木聖二県議会議員



ご挨拶 野中厚衆議院議員



象鼻杯の説明をする木暮照子さん



古代酒を蓮の葉に注ぐ



小川雅以行田商工会議所会頭のご発声で乾杯





実行委員長ご夫妻と紀州藩徳川さんと実行委員



徳川様と記念写真



徳川様に第2懇親会場へお運びいただきました



閉会の辞 岸田行田市教育委員会委員長



ご出席有難うございました

エクスカーション 7月6日



古代蓮の里



さきたま古墳公園 丸墓山古墳



伝・藩校進脩館表門



忍城御三階櫓



妻沼聖天山歓喜院

【半日コース】 日時／7月6日(日) 8:20~12:40

ホテル ➡ 古代蓮の里 ➡ さきたま古墳公園 ➡ 行田市郷土博物館 ➡ 熊谷駅

【一日コース】 日時／7月6日(日) 8:40~15:50

ホテル ➡ 古代蓮の里 ➡ さきたま古墳公園 ➡ 行田市郷土博物館 ➡ 妻沼聖天山歓喜院 ➡ 熊谷駅

第12回全国藩校サミット行田大会 役員一覧

大会役員	石川 忠久	漢字文化振興協会会長
大会役員	松平 忠昌	忍藩松平家第十六代当主・忍郷友会会長
大会役員	上田 清司	埼玉県知事
大会役員	鈴木 聖二	埼玉県議会議員
大会役員	工藤 正司	行田市市長
大会役員	野口 啓造	行田市議会議長
大会役員	岸田 昌久	行田市教育委員会委員長
大会役員	小川 雅以	行田商工会議所会頭
顧問	野中 厚	衆議院議員
顧問	小川 秀樹	株式会社埼玉新聞社社長
顧問	中村 猛彦	行田市教育委員会教育長
参 与	小林 一彦	埼玉県利根地域振興センター所長
実行委員長	松平 忠昌	忍藩松平家第十六代当主・忍郷友会会長
実行委員長代理	鈴木 秀憲	行田商工会議所名誉会頭
副実行委員長	渡邊 栄一	忍郷友会副会長
副実行委員長	白石 宗靖	漢字文化振興協会事務局局長
実行委員	矢澤 大和	忍郷友会藩校サミット協力委員会委員長
実行委員	細井 保雄	行田商工会議所副会頭
実行委員	清水 龍男	行田ケーブルテレビ株式会社代表取締役
実行委員	福島 伸悦	行田ロータリークラブ前会長
実行委員	漆原 正人	行田ライオンズクラブ会長
実行委員	倉持 成一郎	行田さくらロータリークラブ前会長
実行委員	大野 哲也	行田青年会議所理事長
実行委員	田代 敬二	忍郷友会進脩塾主幹
実行委員	奥田 七寿	忍郷友会進脩塾幹事
監 事	小山 博	忍郷友会事務局局長
監 事	小林 乙三	行田市観光協会事務局局長
実行委員	清水 威男	忍郷友会事務局
実行委員	清水 直人	埼玉県利根地域振興センター地域振興担当部長
実行委員	高橋 秀男	行田市郷土博物館館長
実行委員	猪野 敏和	行田市教育委員会生涯学習部長
実行委員	新井 啓介	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	五十幡 和彦	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	岩崎 安裕	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	碓井 勝也	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	永島 健雄	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	遠藤 初枝	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	大澤 誠	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	大谷 文孝	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	大野 純一	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	大谷 純一	忍郷友会藩校サミット協力委員

実行委員	粕谷 悦昭	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	加藤 力也	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	川田 隆生	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	栗原 毯子	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	黒渕 陽夫	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	小池 俊輔	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	小菅 克祥	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	小林 晴夫	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	小松 弘	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	須郷 和美	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	鈴木 スイ子	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	瀬田 博文	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	中川 邦夫	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	橋本 恭一	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	早崎 敬一	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	半田 太	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	藤倉 武	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	松岡 由浩	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	山本 憲作	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	横川 福治	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	渡辺 幸子	忍郷友会藩校サミット協力委員
実行委員	渡邊 久記	忍郷友会藩校サミット協力委員
協力委員	稲永 忍	ものつくり大学学長
協力委員	羽田 邦弘	埼玉県立進修館高等学校校長
協力委員	野中 昭夫	行田市自治会連合会会長
協力委員	小池 利昌	行田市商店会連合会会長
協力委員	坂本 健次	J Aはくさい代表理事組合長
協力委員	佐野 哲雄	南河原商工会会長
協力委員	大澤 由子	行田市文化団体連合会会長
協力委員	井澤 一博	行田市小学校長会会長
協力委員	守屋 勝利	行田市中学校長会会長
協力委員	羽鳥 英樹	行田市PTA連合会会長
協力委員	島山 恒雄	埼玉浮き城プロバスケットボール副会長
協力委員	北田 通次	埼玉県企画財政部地域政策課長
協力委員	下田 正幸	埼玉県県民生活部広聴広報課長
協力委員	小成 要昭	埼玉県県民生活部文化振興課長
協力委員	書成 貞博	埼玉県産業労働部観光課長
協力委員	羽沼 利明	埼玉県さきたま史跡の博物館館長
協力委員	永沼 規美	埼玉県立進修館高等学校同窓会会長
協力委員	信澤 精一	行田市郷土博物館協議会会長
協力委員	小川 栄一	行田市郷土博物館友の会会長
協力委員	鈴木 紀三雄	（公財）行田市産業文化スポーツいきいき財団専務理事 行田市郷土博物館副館長

埼玉県立進修館高等学校
ボランティアスタッフ

宮野 望さん
白石 キミエさん
宇野 舞美さん
山下 央人さん
黒沢 幸浩さん
守屋 隆秀さん
高橋 辰典さん
宮島 慎二郎さん
澤田 歩美さん



主催／第12回全国藩校サミット行田大会実行委員会 一般社団法人 漢字文化振興協会

「藩校サミット」は一般社団法人 漢字文化振興協会の登録商標です（登録第5638522号）

編集・発行／公益財団法人 忍郷友会

【事務局】公益財団法人 忍郷友会 行田市行田5番10号スリーハートビル3F TEL.048-556-9000